

トーヨーカネツ株式会社
2024年3月期決算説明会（2024年5月30日開催）
質疑応答要旨

Q1. プラント事業はメンテナンスが必要となるタンクが多い事が好調な理由か。

A1. 使用中の原油タンク等は定期的にメンテナンスを実施する事が法律上定められていますが、当社は約90~100基のタンクメンテナンス工事を継続的に実施しており、引き続き需要があると考えています。

Q2. 次世代エネルギー開発事業の営業利益がまだマイナスの理由は。

A2. 大型液化水素タンクの研究開発が先行投資の状況となっている事で、営業利益がマイナスの状況となっています。

Q3. 今回受注したインドネシアのタンクについて。

A3. 今般インドネシアで球形タンクを受注し、現在バタム工場で加工しています。今年の夏頃から施工に入る予定です。当社が得意としてきた低温タンクとは違い、化学品を入れるタンクですが、当社において溶接技術等の技術継承が課題である事から、今回の新設タンクを通じて技術継承を図っていきたいと考えています。

Q4. 物流ソリューション事業での製造業への領域拡大の内容について。

A4. 製造業の国内回帰が進んできており、それに伴い部品の保管・供給等を自動化するニーズは高くなっています。引き続き製造工程の自動化を進めていきます。物流は元々、課題解決（ソリューション）をメインでやっており、製造業の新しい市場においてもその考え方を継承し取り組んでいけるものと考えています。

Q5. ROEが前期9.4%から今期7%に低下する理由は？また、今後の見通しをどう考えているか。

A5. 前期のROE 9.4%には、政策保有株式の売却益や海外の土地売却益が含まれており、これら一過性

の要因が今期は除かれるため、7%としています。当社は中計最終年度（今期）で8%を目指すとしていましたが、今期は増収増益の予想をたてている事と、また中計の施策等をしっかり実現する事で7%から更に上の中計目標8%を目指していきたいと考えています。なお、前期も特別利益がなければ7%程度の状況でした。

Q6. スライドに「長期視点でのポートフォリオの将来変化」とあるが、長期とはどのくらいの期間を想定しているのか。

A6. 当社は2040年に100周年を迎えます。それに向けて、2030年頃にはこのポートフォリオの形に持っていきたいと考えています。

Q7. 液化水素タンクについて、国内では計画段階との事だが候補地は決まっているのか。また、海外（中東）での液化水素タンクの進捗は。

A7. 国内においては、水素に係る環境がまだ整備されていない状況です。当社としては2027年度に液化水素タンクの研究開発終了を目指しています。環境が整っていないなかで、現状は大型タンクの実験レベルとしては進んでいるが、実用レベルとなるとまだこれからと考えています。なお、中東の水素タンクについては、当社としては取り組んでいません。

Q8. プラント事業でSAFタンクの受注につながったとの事だが、建設案件なのかメンテナンス案件なのか。また納入場所はどこになるのか。

A8. 今回の案件は新設になります。メンテナンス事業を実施している中で、当社の技術やプロジェクト管理能力が評価され、新設のタンク工事受注に結び付いたものと捉えています。場所は関西地区です。

以上